

熱交換器・ユニットクーラーの腐食対策

庫内環境の温度や湿度、腐食性物質を含んだ空気環境によっては、腐食を起こす可能性があります。

対応策として、耐食性を向上させた熱交換器・ユニットクーラーのご採用をお勧めします。

※使用条件や熱交換器・ユニットクーラーの仕様によっては製作できないことがありますので、ご相談下さい。

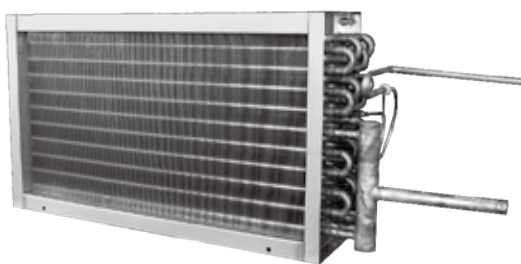
□フィンの腐食対策

標準仕様は、銅管とアルミフィン（ベア材）の組み合わせです。

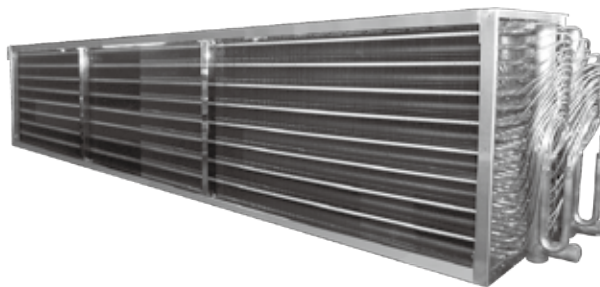
腐食による影響でアルミフィンが傷み、熱交換器の性能が低下することがあります。

対応策として、以下の仕様をお勧めいたします。

- 銅管+アルミフィン
(フィン表面処理加工:プレコート加工、アルマイト加工)



- 銅管+銅フィン



□熱交換器の腐食対策

特に腐食による影響が高い環境では、銅管やロー付け部が腐食してガス漏れを起こす可能性があります。

対応策として、以下の仕様をお勧めいたします。

- カチオン電着塗装

熱交換器（銅管 + アルミフィン）の表面にエポキシ樹脂系塗膜を形成して熱交換器の耐食性を向上します。

- ステンレスコイル

管とフィンをSUS304 で組み合わせて熱交換器の耐食性を向上します。



□ユニットクーラーの腐食対策

熱交換器の腐食以外にも、ユニットクーラーのフレームやケーシング、送風機等が腐食して、ドレン水の漏れや送風機の故障といったトラブルを発生することがあります。

対応策として、以下の仕様をお勧めいたします。

- ドレンパンのみ SUS304 仕様

- ケーシング SUS304 仕様

- 送風機 SUS304 仕様

※モーター内部の鉄芯、玉軸受は除く。

- オールステンレス（SUS304）仕様

管、フィン、フレーム、ケーシング、送風機をSUS304 で構成してユニットクーラー全体の耐食性を向上します。



- 腐食性ガス（硫黄系、酸性、アンモニア等）を発生する食品や塩分を含む食品を貯蔵する場合は、直接庫内に入れずに密閉した状態で貯蔵して下さい。ユニットクーラーが腐食し、ガス漏れ、水漏れ、漏電といった故障の原因となります。
- 上記の耐食仕様を行っても腐食や発錆に対して万全ではありません。設置する場所や設置後のメンテナンスに十分留意が必要です。